

第 62 回 静岡リハビリテーション懇話会

日 時 : 2022 年 10 月 1 日(土) 12:50~ 受付開始 12:00

開催方法 : 現地参集+Web(ハイブリッド型)

現 地 : 静岡リハビリテーション病院

住所: 静岡県静岡市葵区新聞 318 番地の 1 (蛸が丘団地 跡地)

電話: 054-277-1221 (静岡駅から無料シャトルバスあり・会場病院無料駐車場あり)

●静岡リハビリテーション懇話会

世話人: 小嶋 玲奈 静岡リハビリテーション病院 副院長

責任者: 小嶋 康則 静岡リハビリテーション懇話会 中部担当副会長
静岡リハビリテーション病院 病院長

特別講演: 野原 幹司 先生 大阪大学大学院歯学研究科
高次脳口腔機能学講座 顎口腔機能治療学教室 准教授
『認知症高齢者の摂食嚥下リハビリテーション～キュアからケアへ』

主 催	静岡リハビリテーション懇話会
共 催	静岡県看護協会 静岡県作業療法士会 静岡県理学療法士会 静岡県言語聴覚士会
会 長	藤島 一郎 浜松市リハビリテーション病院
世 話 人	小嶋 玲奈 静岡リハビリテーション病院
責 任 者	小嶋 康則 静岡リハビリテーション病院
事 務 局 長	小嶋 玲奈 静岡リハビリテーション病院
後 援	静岡県 静岡県医師会 静岡リハビリテーション医学会 静岡県歯科医師会 静岡県歯科衛生士会 静岡県歯科技工士会 静岡県薬剤師会 静岡県栄養士会 静岡県社会福祉協議会 静岡県介護福祉士会 静岡県介護支援専門員協会

〈会場での感染症予防対策〉

～会場：静岡リハビリテーション病院内～

新型コロナウイルス感染症予防対策について

会場開催と Web 開催（懇話会A会場・懇話会B会場にて発表、ライブ配信、全会場オンデマンド配信）を併用したハイブリッド方式にて開催いたします。会場開催にあたりましては、感染拡大の防止に細心の注意を払い、本会では、参加者の皆様が安心してご来場いただけますよう、以下の取り組みを実施いたします。

会場へお越しいただく皆様におかれましても、マスクのご準備、手洗い、うがい、手指消毒など、感染防止策へのご理解とご協力を頂けますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

～ご参加される皆様へ～

あらかじめ以下の内容に対しご理解の上、ご来場いただきますようお願いいたします。

37.5度以上の熱や咳がある方、のどの痛みなどの症状や全身倦怠感など体調のすぐれない方、新型コロナウイルス感染症陽性者との濃厚接触がある方、過去2週間以内に政府から観察期間を必要とされている方に置かれましては、ご来場をお控えくださいますようお願い申し上げます。

（来場予定から Web 参加に切り替えご希望の方は事務局にご連絡ください。）

消毒用アルコールの設置をいたします。十分な感染対策にご協力ください。

会場にて万が一体調が悪くなった場合、我慢なせずに速やかにお近くのスタッフにお声がけください。

万一感染者が発生した場合の拡大防止のため、政府・自治体からの情報提供を求められた場合は、個人情報の取扱いに十分注意しつつ、必要に応じて参加者の方の個人情報を提供いたしますので予めご了承のうえご参加ください。各講演会場内の収容人数に制限があるため、満席の場合、入場をお断りさせていただく場合がございます。

（入場できなかった場合、Webでの参加に切り替えをお願いさせていただきます）

【受付】

参加受付前に検温を実施いたします。

受付待ちの参加者の皆様が間隔をとって並んでいただけるよう表示を設置いたします。

手指消毒用アルコールを設置・飛沫感染防止用シートを設置いたします。

【講演会場内】

司会席/質疑応答席には、飛沫感染防止用のアクリル板を設置いたします。

講演時に利用したマイク等は、定期的に除菌シートで消毒いたします。

館内は常時十分に換気を行っておりますが、プログラム中も窓・扉を開放します。

ソーシャルディスタンス確保のため、会場内の席数を通常より減らして開催いたします。

【懇親会】開催いたしません。

【託児所】設置いたしません。

【主催者、協賛企業関係者、運営スタッフ】

検温、手洗い、うがい、アルコール消毒を実施いたします。

会場内ではマスク（必要な場合はフェイスシールド、ビニール手袋）着用を徹底いたします。

本会といたしましても感染予防対策を実施してまいりますので、ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

第 62 回静岡リハビリテーション懇話会 ご参加の皆様へ

【現地参集の参加者の皆様へ】参加受付:1階 12:00～

- ①受付前に検温実施をお願いします。実施後、問題なければ検温済みシールを着衣に貼付させていただきます
- ②受付は、「座長・発表演者」「一般申し込み」「団体申し込み」それぞれの場所で行います
- ③事前参加登録をお済みの方は、受付でネームカード(参加証・領収書付き)とネームホルダーをお渡ししますので、会中ご着用ください
- ④当日現地支払いの方は(基本クレジットカード対応)、お渡す申し込み書に必要事項を記入の上、ネームカード(参加証・領収書付き)とネームホルダーをお渡しいたしますのでご着用ください
- ⑤単位申請に関して:参加確認後、事務局で適する会へ単位申請を代わり申請いたします
- ⑥交通案内 住所:静岡市葵区新聞 318-1(蛍が丘団地跡地)

TEL:054-277-1221

車でご来場の方:病院無料駐車場あり(200 台分)

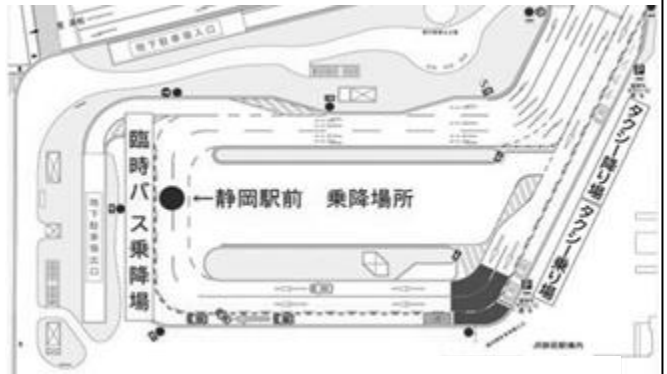
新東名静岡 SA のスマートインター降りて 5 分

静岡駅よりご来場の方:(片道 25 分程度)

静岡駅から会場 往復 無料シャトルバスあり

静岡駅⇒会場行 ①11:30 発 ②12:20 発

会場⇒静岡駅行 ①15:20 発 ②16:40 発 ③18:00 発



バス乗り場: 駅北 AOI 側

【Web 参加者の皆様へ】

- ①時間になりましたらメール送付の URL より入室をお願いします
- ②参加確認に関して:事務局で入退室を確認し、後日ハガキにて「参加証・領収書」を郵送いたします
- ③単位申請に関して:入退室にて参加確認後、事務局で適する会へ単位申請を代わり申請いたします
- ④当日のお問い合わせに関して:**会当日は電話対応のみとなります(TEL:054-277-1221 10:00～18:00)**
当日のメール対応は致しかねますので、何卒ご理解をよろしくお願いいたします

【現地参集予定から Web 切り替えをご希望の方へ】

会開催 2 日前までに(2022 年 9 月 29 日木曜まで)、事務局のホームページお問い合わせフォームより Web へ参加変更希望の旨、ご連絡をお願いします。それ以降、急遽変更ご希望の方は事務局へ直接お電話にてご連絡お願い致します(TEL:054-277-1221 9:00～16:00)※事務局員不在の場合は後日折り返しをさせていただきます

【発表演者の方】※当日発表データ USB を忘れずご持参をお願いします

- ①基本、現地発表です
- ②来場し発表者受付を済ませた後、1F 外来前に発表者試写室がございますのでデータの試写とスタッフへデータを渡すようお願いします
- ③Mac で発表される方は、当日ご自身のパソコンをお持ちください

【第 62 回静岡リハビリテーション懇話会参加・発表において取得単位に関して】

- ・日本医師会:単位付与あり
- ・日本リハビリテーション医学会:専門医 1 単位・認定臨床医 10 単位の単位付与、生涯教育研修会
- ・日本作業療法士会:生涯教育制度単位付与対象学会・研修会に認定済み 単位付与あり
→参加者は 1 ポイント、発表者は更にプラス 1 ポイント付与
- ・日本言語聴覚士協会:生涯学習プログラムのポイント取得対象研修 参加者・発表者ポイント取得可能

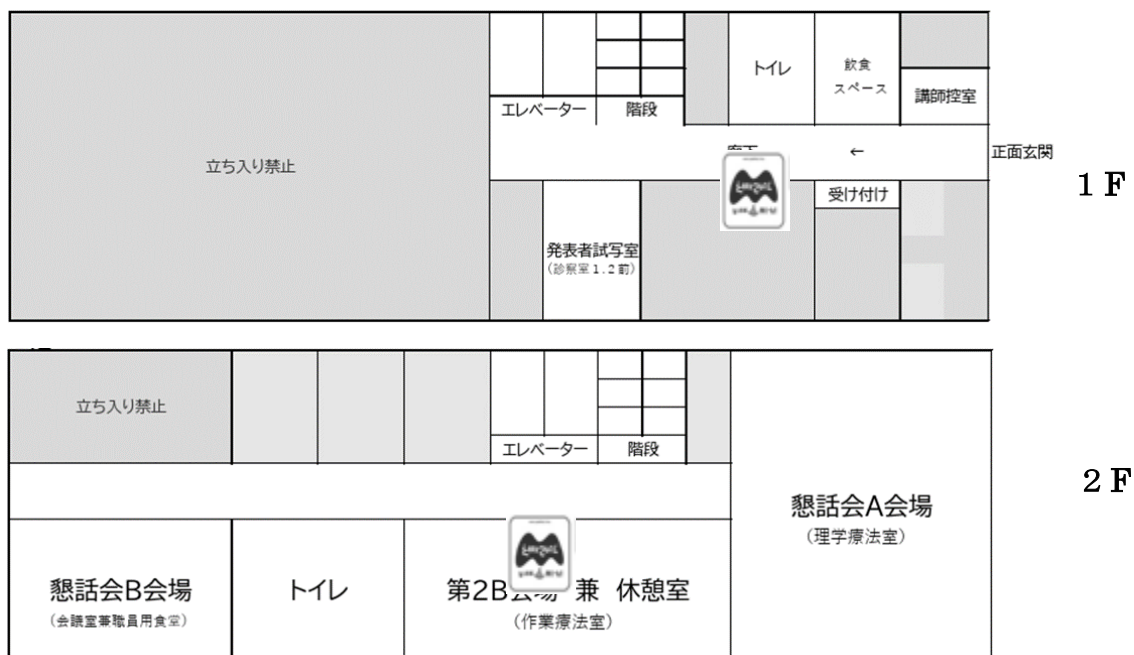
※これまで「日本理学療法士協会」生涯教育制度単位付与対象学会・研修会に認定されておりましたが今回認定されておられません。

第 62 回静岡リハビリテーション懇話会タイムスケジュール

懇話会 時間割	理学療法室(体育館) 懇話会 A 会場	職員食堂兼会議室 懇話会 B 会場
12:00～	受付1階エントランス	
12:50～	開会式	
13:00～14:00	セッション A- I	セッション B- I
14:00～14:10	休憩・移動	
14:10～15:10	セッション A- II	セッション B- II
15:10～15:20	休憩・移動	
15:20～16:30	セッション A- III	セッション B- III
16:30～16:40	休憩・移動	
16:40～17:40	【特別講演】	
17:40～	閉会式 責任者挨拶	

※各演題は6分発表、3分質疑応答

【会場図】



1 階の受付付近と 2 階の第 2B 会場付近に Wi-Fi フリースポットがあります

受付は 1F ロビー（来賓・役員・座長・発表者）、発表者 PC 受付は 1F 外来診察室前、2F に会場 A・B がご
 います。総会（常任役員・評議員）は 2F の懇話会 B 会場で行います。

特別講演

『認知症高齢者の摂食嚥下リハビリテーション～キュアからケアへ』

野原 幹司 先生 大阪大学大学院歯学研究科 高次脳口腔機能学講座 顎口腔機能治療学教室 准教授

16:40～17:40

座長:小嶋 玲奈 静岡リハビリテーション病院(歯科医師)

認知症はそのほとんどが進行性である。Treatable dementia という概念で括られるものを除いては、いったん発症すると徐々に機能が低下していくのが「認知症」である。認知症高齢者の機能障害を考えるにあたり、この「進行性」という病態を忘れてはならない。例えば、進行性疾患の代表例ともいえる ALS の機能障害を訓練で改善できないように、認知症に起因する嚥下障害を訓練で改善することは不可能である。そういった大前提を無視して、目先の症状だけを見て訓練や栄養での機能回復を目指す、効果が出ないばかりでなく、患者本人・介助者や医療者も消耗し、無力感を味わうことになる。

これまでの摂食嚥下リハビリテーション(嚥下リハ)は、どちらかという回復期の嚥下障害を中心にして発展してきた。回復期の嚥下リハの基本は、「訓練・機能回復」であったかもしれない。しかし、上記のように認知症は慢性の進行性疾患であり、「訓練・機能回復」ではなく、機能低下を防ぐこと、および今ある機能を活かして生活の質を改善することに注力すべきである。要するに、回復期の嚥下リハは「キュア＝訓練で治す」という治療戦略であるのに対し、認知症では「ケア＝今の機能を最大限に活用できるよう支援する」という発想の転換が必要となる。

そこで心がけるべきは、認知症の原因疾患にもとづいたケアを行うことである。認知症は、その原因疾患によって機能障害の症状や注意すべきポイントが全く異なる。したがって、認知症を一括りにしてただ闇雲にケアを行うのではなく、原因疾患を意識し、その病態を考慮した食支援を行うことが最善のケアとなる。

今回の講演ではアルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の病態を解説し、その病態にもとづいたケア方法を解説する予定である。認知症高齢者にとって「食」は栄養補給というだけでなく、家族とのコミュニケーションであり生活の彩となる。医療者がその「彩」を奪うことがないように、病態にもとづいた認知症高齢者の嚥下リハが広まることを願う。

～野原 幹司(のはらかんじ)先生 ご略歴～

1997年 大阪大学歯学部歯学科卒

2001年 大阪大学大学院歯学研究科修了 博士号取得(歯学)

2001年 大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機能治療部 医員

2002年 大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機能治療部 助手(2007年より助教)兼医長

2015年 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学教室 准教授 現在に至る

専門分野 : 摂食嚥下障害, 栄養障害, 音声言語障害, 睡眠時無呼吸症, 口腔乾燥症

NPO 法人 摂食介護支援プロジェクト 理事・一般社団法人 日本在宅薬学会 理事・日本摂食嚥下リハビリテーション学会 評議員, 学会認定士・日本老年歯科医学会 評議員, 認定医, 専門医, 指導医, 摂食機能療法専門歯科医・

日本口腔科学会認定医, 日本静脈経腸栄養学会認定歯科医, 日本口蓋裂学会認定師・岩手医科大学非常勤講師

著書<編著>

- ・薬からの摂食嚥下臨床 実践メソッド 野原幹司 編著, じほう.
 - ・認知症患者さんの病態別食支援 野原幹司 編著, メディカ出版.
 - ・訪問歯科診療ではじめる摂食・嚥下障害へのアプローチ(植松宏監修), 医歯薬出版.
 - ・摂食・嚥下障害検査のための内視鏡の使い方 DVD&ブックレット(戸原玄, 武原格, 野原幹司), 医歯薬出版.
 - ・認知症患者の摂食・嚥下リハビリテーション 野原幹司著・編集, 南山堂.
 - ・摂食・嚥下障害マネジメント キュアからケアへ(DVD), 株式会社ケアネット.
 - ・終末期の摂食嚥下リハビリテーション～看取りを見据えたアプローチ, 野原幹司責任編集, 全日本病院出版会
- <分担>・現場の疑問に答える 呼吸リハ徹底攻略 Q&A. (高橋仁美, 塩谷隆信編著)中外医学社. 他多数

一般演題 セッションA (A会場：体育館・理学療法室)

A-I 13:00~14:00

座長：泉 千花子 先生 静岡県言語聴覚士会長 すずかけセントラル病院 言語聴覚士

A-I-1	記憶障害を伴う漢字失書例のリハビリテーション経過	川邊圭太	言語聴覚士	中伊豆リハビリテーションセンター
A-I-2	当院での認知症サポートチームの取り組みについて	石切山淳一	作業療法士	静岡リハビリテーション病院
A-I-3	意識レベルの高さが要因となり長期的な人工呼吸器装着から完全離脱に至った一症例	戸塚朱音	理学療法士	すずかけセントラル病院
A-I-4	当院での脳卒中急性期リハビリテーションの早期からのチーム連携	中沢稔	理学療法士	市立静岡病院
A-I-5	回復期病院における特定看護師（栄養・水分）の活動	田中直美	看護師	浜松市リハビリテーション病院
A-I-6	重度の高次脳機能障害を呈し、自宅復帰後に社会参加を目指した一例	小田和弘	言語聴覚士	静岡リハビリテーション病院

A-II 14:10~15:10

座長：馬渡 敏也 先生 三島共立病院 リハビリテーション科 医師

A-II-1	コロナ禍における療養型病院リハビリテーション科の取り組みについて	堀池裕文	理学療法士	静岡富沢病院
A-II-2	LINE 誤送信を恐れる事例の心理面に着目したスマホ操作への関わり ～面会制限下での家族交流再開を目指して～	池谷夏季	作業療法士	天竜すずかけ病院
A-II-3	看護補助者業務の円滑化に向けて一考察	吉川陽子	看護補助者	静岡リハビリテーション病院
A-II-4	リモートを活用して装具製作に至った一症例 ～訪問リハビリテーションとの連携～	氷見純	義肢装具士	東名ブレース
A-II-5	療養型病院におけるコロナ院内感染発生時のリハビリ科の動き	石川春奈	作業療法士	静岡富沢病院
A-II-6	静岡富沢病院でのコロナ感染について	小嶋康則	医師	静岡リハビリテーション病院

A-III 15:20~16:30

座長：松田 美代子先生 静岡県歯科医師会 松田歯科医院 歯科医師

A-III-1	リハビリテーション病院内での歯科衛生士の在り方	寺田優花	歯科衛生士	静岡リハビリテーション病院
A-III-2	中咽頭癌に対する左頸部郭清術後の作業療法 ～ぐるぐるストレッチ・ぐいぐいストレッチを導入して～	岡本崇志	作業療法士	浜松医科大学医学部附属病院
A-III-3	歯科・口腔外科と作業療法との連携により、口腔内環境の改善がみられた一例	進士幸奈	作業療法士	静岡リハビリテーション病院
A-III-4	人工呼吸器管理下における音声表出獲得に関与する要因について	高田千里	言語聴覚士	すずかけセントラル病院
A-III-5	在宅支援からみる口腔ケアの重要性	萩原麻由子	歯科衛生士	静岡リハビリテーション病院
A-III-6	ブリッジ嚥下訓練により中下部の食道収縮が改善した強皮症の一例	中村雄陽	言語聴覚士	浜松市リハビリテーション病院
A-III-7	道具の調整により口腔ケアの改善を認めた一例 ～歯科・口腔外科と作業療法科の連携～	成田琴音	作業療法士	静岡リハビリテーション病院

一般演題 セッションB (B会場：食堂兼会議室)

B-I 13:00~14:00

座長：山内 一之先生 Body Coordination ポポラ 理学療法士

B-I-1	静岡圏域地域リハビリテーション広域支援センター事業 多職種連携で「つなぐ」 ～脳卒中片麻痺者の下肢装具に関するフォローアップ体制～	石野泰央	理学療法士	静岡リハビリテーション病院
B-I-2	右大腿切断術後患者の自宅退院に向けた福祉用具導入事例	藤田京美	作業療法士	中伊豆温泉病院
B-I-3	多職種で関わる下腿切断者への継続的な支援	天野浩也	理学療法士	静岡リハビリテーション病院
B-I-4	ミラーセラピーで視床痛の軽減を認めた一例	坪井暢久	作業療法士	静岡リハビリテーション病院
B-I-5	職員に対する腰痛予防への取り組み ～体操を就業前に導入した結果～	早川佳秀	理学療法士	すずかけヘルスケア病院
B-I-6	院内での腰痛予防対策の取り組み報告 ～スポーツも、仕事も、体が資本 グッバイ、腰痛。～	足立亮汰	理学療法士	静岡リハビリテーション病院

B-II 14:10~15:10

座長：山口 加代子先生 訪問看護ステーションあおぞら 看護師

B-II-1	腰椎圧迫骨折患者に対するリハビリテーション栄養チームの介入症例	青木美晴	管理栄養士	静岡リハビリテーション病院
B-II-2	回復期リハビリテーション病院における暴力被害の現状と課題	奥田希世子	看護師	浜松市リハビリテーション病院
B-II-3	一般大学から介護分野に就職して	佐藤文哉	介護職員	(特養)晃の園
B-II-4	独自の宿泊サービスを活用した、山間地での自立生活支援事例の紹介	宮地俊博	相談員	大川高齢者生活福祉センター
B-II-5	介護老人保健施設を経由し在宅復帰に繋がった一事例	村上加奈子	作業療法士	中伊豆リハビリテーションセンター
B-II-6	看取り介護を振り返って ～栄養士としてのかかわり～	寺畑綾花	管理栄養士	(特養)晃の園

B-III 15:20~16:30

座長：秋山 恭延 先生 浜松医科大学医学部附属病院 作業療法士

B-III-1	自動車免許証が今後更新できなくなる方の作業療法士としての支援 ～認知機能低下により警察に取り締まりを受けた症例から検討できること～	大塚幸二	作業療法士	静岡リハビリテーション病院
B-III-2	通所リハビリテーションでの In Body 活用 ～第一報～	水野なぎさ	理学療法士	リハビリスクエア竜宮
B-III-3	認知症(夕暮れ症候群)の患者の対応について シミュレーション勉強会を用いた関わり方の見直し	海野光代	看護師	静岡リハビリテーション病院
B-III-4	自立訓練施設での記憶障害者に対する生活ケア	川上千晶	作業療法士	中伊豆リハビリテーションセンター
B-III-5	運転困難となり、生活変化に悲観する症例に対して多職種で連携し、支援を行った一症例	名倉央泰	作業療法士	静岡石田 Ryu メディカルトレーニングデイ
B-III-6	当院における運転支援の取り組み	戸栗洋貴	作業療法士	静岡リハビリテーション病院
B-III-7	運動器機能向上加算を算定することによって得られる“効果”と“評価”	前田隆宏	相談員	デイサービスごろざ

静岡リハビリテーション懇話会

事務局：〒静岡市葵区新聞 318 番地の 1

静岡リハビリテーション病院内

連絡先：TEL 054-277-1221 FAX 054-277-1225

ホームページもご覧ください

<https://shizureha-konwakai.com/>

※2022 年 7 月 1 日より懇話会事務局住所・連絡先が変更いたしました

※第 62 回よりホームページ URL が変更となりましたのでご注意ください